



連協道路ニュース

第 324 号

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

(創刊 1988.12.14)

2016.09.04.

横環南線 トンネル換気所への 排ガス脱硝装置の設置に期待

横浜市道路局課長は、5 月の上郷公田線桂台・上郷地区計画説明会において参加住民に対して「**横浜市は事業者に脱硝装置設置を働き掛けていく**」ことを表明した。

林文子横浜市長は、4 月に栄区連合町会に対して同様の回答をしている。

脱硝装置に係る歴史

・平成 5 年～7 年都市計画決定に至るアセス時に横浜市は地元自治体として脱硝装置設置の意見書を出したが、「脱硝装置は現在実用化されていない。実用化された段階で検討を行って行く」との事業者の見解が示され、脱硝装置設置無しで都市計画決定し、事業者計画で進んできた。

・連協、沿線自治会等は、脱硝装置の設置を度々事業者に求めてきた。事業者(NEXCO)は「環境基準値内にあり、経済性等から設置計画は無い。設置スペースは用意しておく、道路供用後の環境状況により必要であれば設置を検討していく」との回答を続けてきた。

横浜環状北線では脱硝装置は付いている

都市計画決定が 5 年遅れの平成 12 年となった横浜環状北線は、横浜市からの南線と同様の脱硝装置設置の意見書に対し、事業者は「検討する」との見解であり、その後の実施計画において脱硝装置は組み入れられている。

環境基準値の上限 0.06ppm までは許容されるという考え方は容認できない

法では二酸化窒素(NO_2)の環境基準値は 0.04～0.06ppm のゾーン内と定めている。

事業者は常に「環境基準値 0.06ppm 以下であり環境は問題ない」とする見解を説明している。

昭和 30 年代後半から深刻な公害健康被害が生じたことから規制が始まり、最初 NO_2 環境基準値を 0.04ppm と制定した。しかし、産業界の要望等を取り入れ 0.06ppm とする上限値が追加され 0.04～0.06ppm のゾーンを基準値としたものである。この規制は 0.06ppm 以下にすることが絶対条件。0.04 より低い環境の所では 0.06 迄どんどん出していいというものではなく 0.04 を超してはならない。そして 0.04～0.06 のゾーン内においては同様、0.06 まで悪化させても構わないとすることではないことは明白である。すなわち、可能な限り環境を悪化させない技術的・経済的に可能な処置を行わなければならないということである。ちなみに横環南線のアセスでの 7 地点の環境現況(予測値)は 0.047～0.053ppm であったことから横浜市が脱硝装置設置の意見書を出したことは当然であり、現在では脱硝技術は実用化されたことから市として設置を求めることは当然のことと言える。

4,300 億円の事業費が昨年いとも簡単に 4,700 億円に増加された現実と事業者の言う費用対効果(便益/費用)は 1.8 であり、脱硝装置設置は経済的に可能と言える。

横浜市の安易な対応は許されない

脱硝装置設置について「事業者に働き掛けていく」との林市長の文書が示されており、国交省、NEXCO とも「市の要請を受け検討を進めていく」と 7 月 21 日の我々との会議時に回答している。経緯に示す如く、そして、ここに来ての市の働き掛けからは「働き掛けたが事業者が駄目と言いました」のような安易な言い訳はゆるされない。

環境良好な住宅地への新設高速道路による大幅な環境悪化は、住民に対する冒涇である。最大限の環境対策があつてこそ、それが公益というものである。

(事務局長 長谷川)

シールドトンネル勉強会

8月31日14時より平和台会館にて東京外環道路関係者4名を迎え、シールドトンネル工事の危険性、問題点に関する意見交換会が行われ、連協からは約45名参加した。

外環ネットから現状報告とシールド工法の問題点説明があり、更にトンネルができること自体の問題点についても言及された。事業者は「シールド工法は最も安全な工法」と言うが、倉敷市水島製油所の5名死亡事故、あちこちで起こった地盤陥没、隆起、更に出水事故等、シールドトンネル工法も決して安全な工法ではないと強調した。

連協側も栄公会堂一帯の地盤沈下(大深度地下での下水管理設工事による)、横浜市営地下鉄新横浜駅付近の地盤沈下、南線一帯の埋め立て盛土問題等、直面している問題について意見交換・議論を行い今後も協力していくことを確認した。



外環ネットの方々
左から、菊地、大塚、籠谷、古川さん



連協の参加者

特に地下水流の変化が地盤沈下や地中空洞化を起し、将来的問題となるだろう。

又、工事中の低周波、完成後の自動車振動が自律神経の変調をきたす等が予測され、今のうちの予防策、防止策を検討すべきであると感じた。(事務局)

庄戸にて釜利谷トンネル工事説明会

9月2日18時より、又3日は10時より庄戸小学校体育館で、「横浜環状南線釜利谷ジャンクションCランプトンネル工事説明会」が行われ、蒸し暑い中2日は約60余名、3日は約80人の参加があった。



事業者側出席者

事業者側の事業状況説明があり、次いで質疑応答に入った。交通ルート等に多少の工夫が見られたが、地下水位保持の砕石壁工事の有効性に関してはその根拠がなく、又釜利谷のガス抜き穴による庄戸への環境影響に関しては、「今やっています」、追及されると「2か月以内に調査結果を出します」との事。地盤改良に使用する高アルカリ液についても、「これから検討します」と問題を先送りした。



住民参加者

対外活動報告

08/09 NEXCO 工務課長より竹岡氏に詫び状(工事説明会の不手際)

08/20 庄戸 NEXCO 打合せ(庄戸コミュニティ)

08/26 NEXCO 建設部長より情報公開拒否通知(笠間十字路の近接問題)

08/30 庄戸合同 NEXCO 打合せ参加(庄戸コミュニティ)

08/31 シールドトンネル勉強会(東京外環道関係者と)

連協約45名参加、於：朝日平和台)

09/02 庄戸工事説明会 於 庄戸小 18時

09/03 庄戸工事説明会 於 庄戸小 10時